令和元年度　自己評価・学校関係者評価報告書

岐阜県立多治見北高等学校

学校番号	４４

Ⅰ　自己評価

学校教育目標	（１）基礎的・基本的な知識・技能の修得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら考え学ぶ意欲や態度を育てる。 （２）豊かな人間性と情操を養うとともに、自らの行動に責任をもち主体的に判断し行動する態度や、積極的に自己を活かす能力を育てる。 （３）自己の在り方や生き方を考え、主体的に自らの進路を考える能力や態度を育てる。 （４）地域社会への理解や関心を深めるとともに、国際化に対応できる能力を育てる。

＜１＞ 評価分野①：　教務部

１　今年度の重点目標と取組・実践内容

１　重点目標	ＩＣＴ導入と授業改善を両輪とする、確かな学力を定着させるカリキュラム研究開発の実践。
２　重点目標達成のための取組	(1) ＩＣＴを効果的に利用するスキルの向上。 (2) 生徒の主体的な学びを促す授業とＩＣＴの活用をつなげたカリキュラム研究開発を行う。
３　上記取組項目の具体的実践内容	(1) 校外の研修への積極的な参加と、そこで得た成果の共有化を図る。 (2) 授業公開を活用したスキルの共有化。 (3) 教科内でのデジタル資料の共有化。 (4) カリキュラム研究開発と成果の蓄積。
４　目標達成度の判断・判定基準・指標	(1) 研修参加者数の変化 (2) 生徒の授業評価の活用。 (3) 教科内外での情報交換の活性化。 (4) 教材の開発と蓄積。

２　自己評価

〈１〉評価対象領域・分野に関する「生徒及び保護者を対象とするアンケートの結果」、「学校評議員の意見」、「授業評価の結果」などによる現状分析

(1) 第１回授業評価において、「授業内容の理解を深めるために情報機器が活用されている」という項目の評価は、理科、英語、情報を除き他の授業評価項目に比べ低評価であった。今後の授業評価において変化が期待される。
(2) １０月２８日に実施した「岐阜県ふるさと教育週間・学校公開日」で見学に来た中学生のアンケート自由記述に「ＩＣＴ機器を利用していてわかりやすい」というコメントが３０件（１８１人参加）ほど寄せられていた。
(3) 国語、数学、理科において研究授業がなされた。その中で、ＩＣＴ機器の活用についても研修がなされた。
(4) ＩＣＴ機器利用方法に関する職員研修会を２回実施した。

〈２〉今年度重点目標達成のための取組に関する評価　（評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:やや不十分 D:不十分）

評価の視点及び評価の理由	評　価
(1) ＩＣＴを効果的に利用するスキルの向上。 ・ＩＣＴロッカー等、事務部とも連携しつつ使いやすい環境整備に努めてきた。 ・「先ずは始めよう」ということについては、多くの教科でＩＣＴの導入が始まり、授業内でプロジェクター等の利用が特別なものではなくなった。 ・コンテンツやその蓄積が不足する中で、できることから始めるというスタンスで学校全体が動き始めている。	A　[B]　C　D
(2) 生徒の主体的な学びを促す授業とＩＣＴの活用をつなげたカリキュラム研究開発を行う ・生徒の主体的な学びをＩＣＴ活用につなげる試みについては緒についたばかりである。	A　B　[C]　D
総　合　評　価	A　[B]　C　D

〈３〉成果と課題

○ＩＣＴ機器導入とホワイトボード化において使いやすい環境整備を進めることができた。
○主体的にＩＣＴ活用の向上を目指した研修を行う教科が複数あった。
○職員研修会によって、誰もが利用できるスキルの共有が進んだ。
●タブレットの納入が遅くなり、まだその活用については広まっていない。
●デジタルコンテンツの整備が遅れている。
●非常勤講師の先生方が利用しやすい環境がない。

〈４〉来年度へ向けての改善方策案

(1) ＩＣＴ活用実践の向上は今後、互いに情報を共有したり、蓄積したりすることで高まると期待される。教科内外の相互の交流を促進したい。
(2) 主体的な学びについては、学校全体で考え発展させるべき課題として取り上げたい。

３　学校関係者評価　　実施年月日：令和２年２月７日

［意見・要望・評価等］
○先生方が、教育活動や生徒指導に一生懸命で、生徒も楽しく通っている。
○ＩＣＴの活用を、教員の時間短縮につなげてもらいたい。
○ＩＣＴの活用において、スキルに差が出てしまうと思うが、利用しやすくするためのプログラムや研修をどのように行っていくのか。
→コンテンツの充実は今後の課題である。外部プログラムの利用はあまりなされていないが、校内での２回の研修によって、活用へのハードルは低くなったのではないかと考える。今後は、教科内外での教材や授業での導入手法の交流、共有化を進めることで、より活用しやすい環境を構築していきたい。カリキュラムセンターとしてデータセンターを効果的に活用することで、教育の質を維持しつつ。教員の労働時間についても軽減を図りたい。同時にタブレット一人一台体制が強く望まれる。
○キャリア教育に力を入れ、大学進学だけがゴールにならない指導がなされている。
→確かな学力形成とキャリア形成する力の育成を両翼とした教育活動を継続していく。

＜２＞ 評価分野②：　生徒指導

１　今年度の重点目標と取組・実践内容

１　重点目標	生徒の自己有用感の育成
２　重点目標達成のための取組	(1) 生徒を主体とした、情報モラル教育、交通安全運動、校則の見直し。 (2) 教育相談的配慮が必要な生徒についての全職員による共通理解推進。 (3) ボランティア活動等の精選と生徒会活動の内容充実。
３　上記取組項目の具体的実践内容	(1) ①入学前の合格者説明会で、生徒指導部による情報モラル講話を実施。 年度当初の４月に外部講師を招き、情報モラル講話を実施。 生徒による「スマホからの解放キャンペーン」を実施。 ②警察や交通安全協会と連携して、ＭＳリーダーズによる交通安全運動を実施。 ③生徒会とともに校則の見直し。 (2) ①教育相談室と保健室の利用状況の周知徹底。 ②教育相談係、学年会、保健室、スクールカウンセラーの連携。 (3) ①ボランティア活動等の精選による生徒の負担軽減。 ②活動時間確保による生徒会活動の内容充実。
４　目標達成度の判断・判定基準・指標	(1) 講話の感想、アンケート結果、校則改定 (2) 教育相談室と保健室の利用状況、迷惑調査結果 (3) ボランティア活動記録、アンケート結果

２　自己評価

〈１〉評価対象領域・分野に関する「生徒及び保護者を対象とするアンケートの結果」、「学校評議員の意見」、「授業評価の結果」などによる現状分析

「生徒を対象とするアンケート結果」
《Ａ「よくあてはまる」＋Ｂ「ややあてはまる」の割合》　※（　）は前年度比
【生活指導】
・本校では、人間としての基本的なモラルやマナーを身に付けさせようと努めている。　９１％（－１％）
・本校では、社会のルールにふさわしい服装、頭髪の指導を行っている。　９３％（＋１％）
【教育相談】
・本校では、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。　８１％（－３％）

【特別活動】
・本校では、外部講師の講演や様々な体験を積むなど、授業以外での学習の機会が多い。　９４％（±０％）
・本校のホームルーム活動の時間は、今後の自分にとって意義のある内容になっている。　８３％（－１％）
・本校の学校行事（球技大会、学校祭等）は充実している。　９２％（－３％）
（一昨年度：７２％、昨年度９５％）
・本校では、部活動が適切な管理体制のもとに、活発に行われている。　８６％（－４％）
・本校では、生徒会活動が活発である。　８０％（－５％）
・本校では、ボランティア活動の大切さを教えると同時にその機会を提供している。　８２％（±０％）

「保護者を対象とするアンケート結果」　※概ね昨年度比でプラス。
【生活指導】
・学校は高校生としてのマナーや社会規範を身に付けさせるための指導を行っている。　８５％（－１％）
・学校は、高校生としてふさわしい服装、頭髪等の指導を行っている。　９０％（－１％）
【教育相談】
・学校では教育相談係が個々の生徒に対して適切な指導を行っている。　６８％（＋４％）
・学校は、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。　６３％（－１％）
【特別指導】
・学校は、外部講師の講演や様々な体験を積むなど、授業以外での学習の機会を多く設けている。　９１％（＋３％）
・学校は、子どもの成長の糧となるような学校行事を行っている。　９２％（＋２％）
・学校では、部活動が適切な管理体制のもとに、活発に行われている。　８６％（±０％）
・学校は、ボランティア活動の大切さを教えると同時に、その機会を提供している。　６８％（＋５％）

※生徒対象のアンケートは、前年度よりも若干マイナス傾向であるが、すべての項目で８０％以上は維持している。
※保護者対象のアンケートは、前年度よりも若干プラス傾向である。教育相談関係とボランティア活動については「わからない」という回答が多いため、数字が低くなっている。
※全体としては、特に問題ない数字であると思われる。

〈２〉今年度重点目標達成のための取組に関する評価　（評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:やや不十分 D:不十分）

評価の視点及び評価の理由	評　価
(1) ①情報モラル教育に関しては、３月に生徒指導部による合格者対象の講話を実施し、４月に外部講師を招いて全校生徒対象の講話を実施した。特に４月の講話は、いつもとは違う切り口の話で、生徒の感想を見ると情報モラルに関する意識が高まったように思われる。情報モラル違反で指導される生徒数は昨年度より減少した。 ②今年度は警察や交通安全協会と連携して､ＭＳリーダーズによる交通安全運動を実施した。 ③生徒会とともに校則の見直しを行った。６月に生徒会執行部と数回に渡って議論し、６月の学校評議員会と７月のＰＴＡ本部支部合同役員会を経て、校則の改定を行った。また、来年度セーラー服のスラックスを導入するにあたり、１月にさらなる校則の見直しを始めた。１月中旬に生徒会執行部との話し合いは終了した。２月の学校評議員会とＰＴＡ本部役員会を経て、来年度の校則を確定させる予定である。	[A] B C D
(2) ①教育相談室と保健室の利用状況の周知徹底ができた。今年度は教育相談室と保健室の利用方法を巡って問題が起こることはなかった。 ②教育相談係、学年会、保健室、スクールカウンセラーの連携がうまくいき、教育相談や特別支援の必要な生徒の早期発見、早期対応ができ、教務部との連携もできた。欠席と遅刻については、１２月時点で前年度比欠席－４１９遅刻－１４であり、かなり減少した。	[A] B C D
(3) ①ボランティア活動の日程や役割分担の見直しにより、生徒の負担を多少軽減することができた。 ②生徒会執行部会を昼休みに昼食をとりながら行うなどして､活動時間の確保に努めた。また、短い時間で集中して活動することを心がけ、生徒会活動の内容充実を図った。今年度は、募金活動などの新しい活動も取り入れることができた。	[A] B C D
総　合　評　価　　概ね目標は達成できた。	[A] B C D

〈３〉成果と課題

○生徒会とともに校則の見直しをすることができた。その上での身だしなみ指導もよく機能している。
○欠席と遅刻は減少しており、遅刻指導や不登校傾向の生徒への対応が適切にできている。
○ＭＳリーダーズ活動や生徒会ボランティア活動は、生徒の負担軽減を図りながら、地域の方々と連携して行うことができた。（連携機関：警察、交通安全協会、東濃西部少年センター、多治見砂防国道事務所、藤本組、多治見ロータリークラブ、多治見市子ども情報センター等）
●情報モラルに関しては、ある程度意識を高めることができたが、生徒のスマートフォン等の使用方法や使用時間については、かなり改善の余地がある。多治見地区の高校全体で行っていた生徒による「スマホからの解放キャンペーン」は今年度実施されなかった。新たな学校独自の生徒によるキャンペーン等を考える必要がある。
●教育相談的配慮の必要な生徒が多様化しており、さらなる指導支援と、全職員の共通理解が必要である。

〈４〉来年度へ向けての改善方策案

(1) 情報モラル教育のさらなる推進。スマートフォン等の使用方法や使用時間に関する啓発。
(2) 全職員による生徒と保護者の情報の共有理解。基本的支援体制のさらなる充実。
(3) 校則の継続的な見直し。

３　学校関係者評価　　実施年月日：令和２年２月７日

［意見・要望・評価等］
○校則の変更は時代の流れである。今回の変更で性別の記載が削除されたが、市役所でも同様に性別の記載欄が無くなった。今後も適宜、時代に合わせて見直しをしていく必要がある。
△アンケート評価のＡ「よくあてはまる」が微減し、Ｂ「ややあてはまる」が微増している項目が目立つ。該当の項目については、注意が必要である。

＜３＞ 評価分野③：　進路指導

１　今年度の重点目標と取組・実践内容

１　重点目標	キャリア教育の体系的な実施と，進路実現に寄与する学力向上の支援。
２　重点目標達成のための取組	(1) キャリア教育を軸にして,本校における様々な教育活動の体系化を進め,本校進路指導の強化を図る。 (2) SGH 指定を活用した TKt，TSP，TGP 実施を通して，生徒の知的興味関心の幅を広げ、多様な進路の可能性を実感させる。 (3) 持続可能な学習支援，キャリア形成支援をさらに進める。 (4) 大学入試改革・教育改革を含めた進路情報の収集と対策を進める。
３　上記取組項目の具体的実践内容	(1) 3 年間の進路行事の流れと，キャリア教育の体系を図示し共有する。 (2) 卒業生をはじめ，多様な外部人材を活用しながら各種講座の充実を図ることで，生徒の主体的な学びを促し，学習意欲を喚起する。 (3) 高大接続の動向について校外の研究会を活用して情報収集し，生徒の実態とのすりあわせを進めながら,進路実現に向けた最適な道を探り出す。 (4) 北辰講座や土曜講座，模試過去問利用など，今後も永く学力保障ができる指導体制の確立に向けて研究を進める。 (5) 小学生オープンスクールの充実など，地域の教育拠点として公教育の効果を高める役割を果たすべく，模索を継続する。
４　目標達成度の判断・判定基準・指標	(1) 事業実施の充実とその効果の検証。 (2) TKt，TSP，TGP 等の実施状況と生徒アンケートの参照。 (3) 学びの基礎診断。土曜開校等の参加状況。講座における生徒アンケート。

２　自己評価

〈１〉評価対象領域・分野に関する「生徒及び保護者を対象とするアンケートの結果」、「学校評議員の意見」、「授業評価の結果」などによる現状分析

(1) 適切な進路情報を提供していると考えている生徒は87％で昨年より3％下降したが、保護者は86％で昨年より2％上昇した。メール配信などによる家庭への情報提供は一定の評価を得ている。新入試制度をはじめ学校の対応を的確に周知するニーズは高まっている。

〈２〉今年度重点目標達成のための取組に関する評価

評価の視点及び評価の理由	評　価
(1) 従来の指導体制の負担と効果のバランスを精査し、改革を進めた。	A [B] C D
(2) TKt、TSP、TGP の充実と外部活力の導入を進めた。	[A] B C D
(3) 従来の成果を活かしつつ、生徒の自発的な活動の機会を増やした。	A [B] C D
(4) 国の方針の変化に翻弄されたが、着実に対応を検討し対処できた。	A [B] C D
総合評価	A [B] C D

〈３〉成果と課題

○ TSP、TGP、TKt などのキャリア教育の実践、特に卒業生に協力をしてもらう体制が充実してきた。新入試制度対応を適時進め、生徒保護者に一定の安心感を与えることができた。
● 不透明な新入試制度への対応は、他校との連絡を密にして今後とも着実に進める必要がある。

〈４〉来年度へ向けての改善方策案

(1) 新学力観に適合した指導への転換を推進し、求められる学力を確実に付けられるようにする。
(2) 新入試元年となる学年の進路実現について情報収集と組織的対応を進める。

３　学校関係者評価　　実施年月日：令和２年２月７日

［意見・要望・評価等］
・生徒全体に対して行うキャリア教育と個々の特性に応じて行うキャリア教育を今後ともバランスよく実施してほしい。
・将来に渡って何がしたいかを見極めさせ、進学先のミスマッチを防止できるとよい。
・高校になると校内のことが見えにくくなる傾向があるが、メール配信による情報提供は学校と保護者を繋ぐ上で有効なツールであると感じる。
・生徒が学校にいられる時間や質問できる時間が有限であるので、個々の生徒に応じて塾と学校をそれぞれうまく活用するのもよいのではないか。

Ⅱ　学校関係者評価　　実施年月日：令和２年２月７日

［意見・要望・評価等］　【　○高評価　△要注意・検討　●要点検・改善　】

○　意見１　教員が教育活動や生徒指導に一生懸命で、生徒も楽しく学校に通っている。
○　意見２　教員がそれぞれ元気に明るくユーモアを交えながら授業をしている姿が印象的である。
△　意見３　大学への進学指導だけが教育の重点にならないように、多様な生徒に対応できるようにしていただきたい。
△　意見４　中学校に比べ高校では、保護者同士の交流や学校を訪れる機会が減るので、メール配信システムなどを活用して適時に情報を発信していただけるとありがたい。
△　意見５　生徒・保護者に対するアンケートで肯定的な意見が８割を超えている項目が多いが、「学校の授業だけでほぼ十分な実力が身につき、学習塾等の必要性はあまり感じない」という項目の評価が低い。しかし、通塾率が高いことが悪いのではなく、多様な生徒が多様な学びの場を求めているということを理解していただきたい。
△　意見６　卒業生をもっと積極的にキャリア教育活動（講演会、講座など）に活用していただきたい。
△　意見７　インフルエンザの流行や新型コロナウイルスによる感染症などが話題になっているが、学校の安全対策を強化していただきたい。
△　意見８　ＩＣＴ機器が導入され、それを活用するための教員研修を充実させていただきたい。
△　意見９　大学入学後、学問が自分の適性と合わない学生が多数いるので高校段階での進路指導、キャリア教育のさらなる充実を望む。